

都市再生整備計画(第3回変更)

なんようし みやうち
南陽市宮内中心拠点再生地区

山形県 なんようし
南陽市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	山形県	市町村名	南陽市	地区名	南陽市宮内中心拠点再生地区	面積	86.5	ha
計画期間	令和4年度～令和8年度	交付期間	令和4年度～令和8年度					

目標
大目標:本市で培われてきた歴史と文化をつなぎ、住みやすくにぎわいのあるまちづくりを推進する 目標1:市民の安全な暮らしの確保 目標2:市民活動の場となる新たな交流拠点の創出 目標3:楽しむことができる街路空間の創出
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 ・本市は、北に丘陵、南に沃野、開湯900有余年の伝統ある赤湯温泉や宮内熊野大社など、優れた伝統と歴史をもったまちである。郷土の民話を伝える「夕鶴の里資料館・語り部の館」や国指定史跡「稻荷森古墳」公園等の歴史と文化、さらに全国のカイスポーツの中心として知られる「南陽スカイパーク」や市民の健康増進を図る「中央花公園(市民体育館)」などの地域文化を大切にしながら、市民の安全な暮らし、ライフサイクルに応じた安心な暮らし、そしてうるおいのある暮らしを目指して、市民が住んでいて良かったと思うまちづくりを進めてきた。 ・令和3年3月に「第6次南陽市総合計画」を策定し、将来都市像である「つながり つどう 縁結ぶまち 南陽」のもと、本市に住む人、訪れる人が生き方、暮らし方を楽しみ、多様な「縁」により新たな付加価値が生み出されていくまちを目指している。 ・令和3年5月に「南陽市立地適正化計画」を策定し、宮内・漆山地域と赤湯地域のそれぞれに生活拠点及び観光交流拠点を位置づけ、都市機能の誘導や生活環境の充実、観光交流を促進している。 ・宮内・漆山地域の中心市街地については、熊野大社に通じる道路及び沿道の修景を整備し、観光振興を図ってきた。
まちづくりの経緯及び現況
・本市はこれまで赤湯地域と宮内・漆山地域の2地域を中心に市街地を形成してきたが、昭和57年度に市役所を赤湯地域、宮内地域及び沖郷地域の間位置に整備し、市内3拠点のまちづくりを進めてきた。 ・宮内・漆山地域は熊野大社の門前町等としてのまちづくりを進めてきており、歴史を感じる風情ある街並みが形成されている。一方、古い街並みのため、道路の狭隘や施設の老朽化など、地域住民が安全に暮らすことのできる環境づくりが課題となっている。
課題
・災害時の避難の安全性の確保 ・老朽化した公共施設の維持管理及び機能不足 ・地域住民の安全な歩行環境の確保
将来ビジョン(中長期)
【都市計画マスタープラン】 ・宮内・漆山地域は将来像を「人と文化が集う交流のまち」として位置付けており、官民連携により賑わい魅力ある観光地づくりや持続可能な生活環境の形成を進めるものとしている。 ・宮内・漆山地域及び赤湯地域の両観光交流拠点において、地域住民はもとより、多くの来訪者が集うよう、フラワー長井線や市内循環バスの利便性向上を図り、観光と交流を促進する。 【立地適正化計画】 ・宮内・漆山地域の中心部を都市機能誘導区域として位置付けており、医療・福祉等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し、集約することにより、各種サービスの効率的な提供を図る地域として整備を進めるものとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・都市機能誘導区域については、病院、障害者支援施設、子育てセンター、地域交流センター等の都市又は地域全体をサービス対象とする施設の維持・誘導を図る。

・居住誘導区域については、日常生活を支える身近な生活利便施設の維持を図る。

・居住誘導区域の外については、工場、倉庫等の工業・流通業務系の機能を配置する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

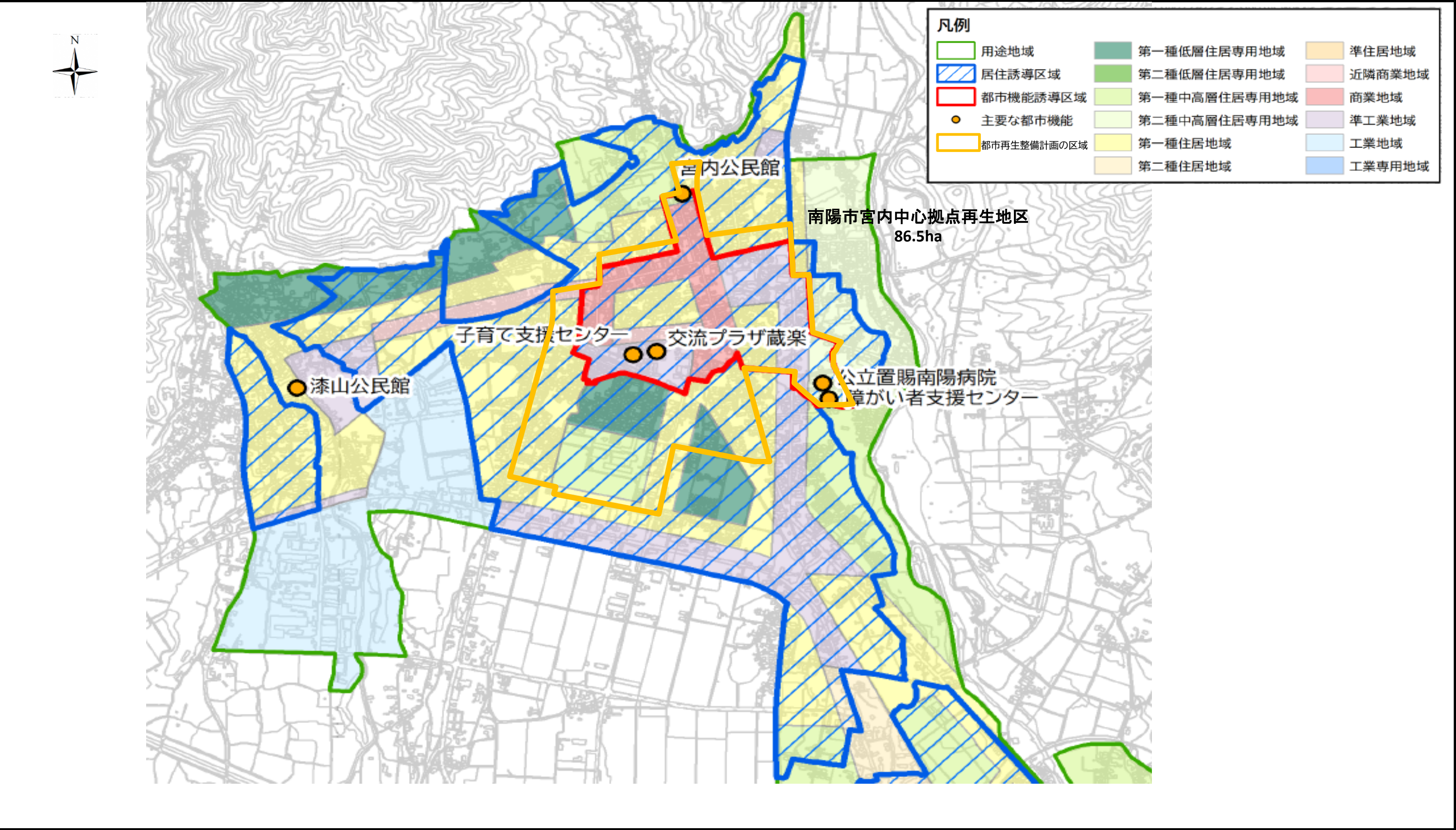
指 標		単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
宮内地区公共施設利用者数		人/年	令和元年度の宮内地区の公共施設の利用者数	市民の文化交流、コミュニティ活動を把握する指標として捉え、まちなかの主要な公共文化施設の年間利用者数を増加させることを目標とする。	22,112	R1	23,000	R8
宮内地区における公共交通機関利用者数		人/年	令和元年度の宮内地区の市内循環バスとフラワー長井線の年間利用者数	市民の文化交流、コミュニティ活動を把握する指標として捉え、公共交通機関の年間利用者数を増加させることを目標とする。	105,398 (市内循環バス23,098) (フラワー長井線82,300)	R1	116,000 (市内循環バス23,000) (フラワー長井線83,000)	R8
宮内地区の公共サービス施設の利便さに対する満足度		%	宮内地区のアンケート調査(公共サービス施設の利便さに対する満足度の割合)	交流センターを複合施設として整備することにより、利便性が高まり満足度向上を図る。	59.33%	R1	63%	R8
宮内地区の道路に対する満足度		%	アンケート調査(道路網の整備に対する満足度の割合)	道路整備をすることにより、通学路の安全性、通勤利便性の確保により、市街地に魅力を感じ、住みたくなるまちづくりを目指す。	43.6%	R1	50	R8

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
	・老朽化した宮内公民館を人々が交流できる空間や、公民館機能を持つ地域交流センターとして交流プラザ蔵楽に新築し、機能複合化を図る。	(基)高次都市施設:宮内地区交流センター(宮内公民館)整備 (基)道路:市道旭町高梨線
	・安全で快適な移動環境を確保し、生活利便性の高い市街地の形成を図るため、市道六角町富貴田線未整備区間の整備を進める。 ・道路や施設の整備による事業効果を検証し、今後のまちづくり計画の策定に活用する。	(基)道路:市道六角町富貴田線整備 (提案事業)事業効果分析
その他		

南陽市宮内中心拠点再生地区(山形県南陽市)	面積	86.5 ha	区域	富貴田、南町下、南町上、南町中、新丁、横町、六角町中、六角町上、旭町、清水町の全部 久保、錦町、柳町上、柳町中、新町、田町上、田町下、宮町、元屋敷、仲ノ丁、糀町、東町下、吉野町上、桜田、本町、六角町下の一部
-----------------------	----	---------	----	--



南陽市宮内中心拠点再生地区(山形県南陽市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標 本市で培われてきた歴史と文化をつなぎ、住みやすくにぎわいのあるまちづくりを推進する	代表的な指標	宮内地区公共施設利用者数 (人/年)	22,112 (R1年度)	→	23,000 (R8年度)
	目標1 市民の安全な暮らしの確保		宮内地区における公共交通機関利用者数 (人/年)	105,398 (R1年度)	→	116,000 (R8年度)
	目標2 楽しむことができる街路空間の創出		宮内地区の公共サービス施設の便linessに対する満足度 (%)	59.33 (R1年度)	→	63 (R8年度)
	目標3 市民活動の場となる新たな交流拠点の創出		宮内地区の道路に対する満足度 (%)	43.6 (R1年度)	→	50 (R8年度)

